SAIPE

Saitama Prefectural University
Interprofessional Education

埼玉県立大学　連携統合プロジェクト　NEWS　LETTER

第２号 発行日　2006年11月22日

埼玉県立大学ＧＰ実施部会

ＧＰ実施部会は、平成17年度に文部科学省によって採択された特色ＧＰ・現代ＧＰの取り組みを推進するために設置されたプロジェクト・チームです。

特集：
専門職連携演習試行事業

目次：

項　目	頁
専門職連携演習試行事業を実施しました	1
多様な機関の援助から「連携と統合」をチームで学ぶ	1
ＩＰ演習　ー準備から試行実施・報告会開催までー	2
『専門職連携推進会議』を基盤に,本学教員と現場職員との協働で演習を準備	2
福祉保健総合センターにてオリエンテーションの後，各演習機関へ	2
病床や家庭，異なる職種の援助場面から学び，仲間と討議し，利用者・職種・援助方法の多面性を学ぶ	3
最終日には一般公開で報告会を開催	3
ＩＰ演習報告会　ー各グループ報告概要ー	4
新カリキュラムの「連携と統合科目群」はじまる	5
学生とともに創造する学び　･･･学生教育参画会議を結成	5
本学，埼玉，日本，世界のＩＰＥの発展のために･･･　学内教職員研修会　学会等における報告　他大学のFD	6

専門職連携演習試行事業を実施しました

平成18年9月19日から22日にかけて，埼玉県比企福祉保健総合センター・東松山保健所管内の各施設・機関において，専門職連携演習試行事業を実施しました．この専門職連携演習（インタープロフェッショナル演習：通称「ＩＰ演習」）は，平成18年度入学生の４年次（平成21年度）に正式開講するものですが，今までにない新しい教育プログラムであることから，今後3年間試行的に実施し，授業内容を評価・構築していくものです．

多様な機関の援助から「連携と統合」をチームで学ぶ

参加した学生は，看護・理学療法・作業療法・社会福祉の各学科の３～４年生の19人．学生たちは学科混合のグループを形成し，各演習機関の職員であるファシリテーター（学習促進者）の導きのもと，ご協力いただいた実際の患者・利用者の生活や援助課題から学びながら4日間を過ごしました．

最終日には東松山市総合会館にて報告会を開催し，ご協力いただいた方々をはじめ，本学の教育に関心を持つ全国の様々な方々から参加をいただきました（詳細はp.2～p.4）．

なお，今回ＩＰ演習を実施した機関は次のとおりです．ご協力ありがとうございました．

【演習実施機関】
○埼玉成恵会病院
○介護老人福祉施設　東松山ホーム
○社会福祉法人昴　ﾊﾛｰｸﾘﾆｯｸなど
○東松山市総合福祉エリア
○東松山市立市民病院

【オリエンテーション実施機関】
○埼玉県比企福祉保健総合センター・東松山保健所

ＩＰ演習　ー準備から試行実施・報告会開催までー

『専門職連携推進会議』を基盤に,本学教員と現場職員との協働で演習を準備

9 月に実施したＩＰ演習は，比企福祉保健総合センター・東松山保健所管内にて平成 17 年度に設置していただいた「比企管内専門職連携推進会議」を基盤として準備を進めてまいりました．

平成 18 年 5 月 27 日（土）には，第 2 回専門職連携推進会議を開催．IP 演習の具体的な進め方を討議し，今回の演習実施機関も選定させていただきました．

また同日には，第 1 回の専門職連携推進研修会「保健医療福祉の連携をすすめる地域と大学の連携」を開催．約 30 人の参加を得て，看護学科教授の大塚眞理子から IP 演習の概要説明を行った後，英国で実際に専門職連携教育を行なっているレスター大学のエリザベス･アンダーソン先生から，地域と大学との連携の実際についてお話をいただき，活発な質疑応答が行われました．その後少人数ごとのグループになって，本学教員の進行のもと，普段顔を合わすことがあまりない異なる機関や職種の専門職同士が，相互理解を深めるグループワークを実施．協働して仕事をするためには，相互に理解することが大切であることや，その様な相互理解の場作りを進めることの意義を，実感するものでした．

その後，9 月までに本学担当教員と演習機関職員（ファシリテーター）の方々とが情報交換をしながら，演習で取り上げさせていただく患者・利用者の方や学習の狙いなどについて検討を重ねました．そして 9 月 15 日にはファシリテーターを対象とした研修会を開催．大学側で考えたＩＰ演習の教育目標や展開方法に対して，ファシリテーターから活発なご意見をいただきました．

このように本学のＩＰ演習は，地域の方々の参画を得た「専門職連携推進会議」を中心として，現場職員，本学教員，そして患者・利用者の方々との協働によって創造する，というスタイルをとっています．これは，単なる教育機関の理念や方法の押し付けではない，現実の課題から「連携と統合」を学生に学んでもらいたいと考えているためです．

今後，県内各地に専門職連携推進会議を設置し，ＩＰ演習実施の協力体制を構築するとともに，専門職連携にかかわる様々な研修事業を実施する予定です．

講演するアンダーソン氏

グループワークの様子

福祉保健総合センターにてオリエンテーションの後，各演習機関へ

雰囲気づくりが大切

教員も真剣…

ＩＰ演習の初日にあたる9月19日には，比企福祉保健総合センター・東松山保健所にて，オリエンテーションを実施しました．ここでは，演習期間中一緒に過ごすこととなる学生同士が初めて顔を合わせ，チーム作りを行ったほか，比企福祉保健総合センター計画推進担当部長の関根功氏より，比企地域の保健医療福祉サービスの特性について講義がありました．

その後，バスなどで各演習機関に移動．同じ大学にいながらも，普段の授業ではあまり顔を合わせることのない学生同士が，援助が行われている実際の現場から学ぶＩＰ演習がスタートしました．

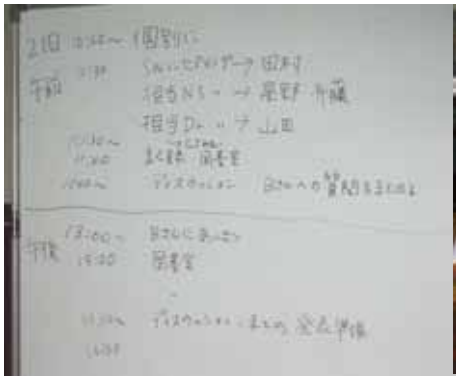
教員も初めての試みに戸惑いがありましたが，試行事業ということで，4日間を通じてビデオ録画や記録のために同行しました．

関根功氏による講義

相手を知ることが第一歩

病床や家庭，異なる職種の援助場面から学び，仲間と討議し，利用者・職種・援助方法の多面性を学ぶ

各演習機関では，ファシリテーターによって患者・利用者の方々の同意を頂いた上で，学生には疾病や生活状況の概要を伝達．学生グループは演習の目標にそって計画を立て，カルテの閲覧やご本人や家族へのインタビュー，援助を行っている様々な援助者へのインタビュー等を実施しました．それらを経て得られた情報について，チームメンバーで討議し，様々な角度から利用者・職種・援助方法の多面性を学びました．



最終日には一般公開で報告会を開催

ＩＰ演習最終日の9月22日には，東松山市総合会館にて，ファシリテーターや演習に協力していただいた方々，また一般の方の参加も得て，報告会を開催しました．各グループは，それぞれ取り組んだ患者・利用者の方々の状況や，援助の様子に触れ，またそれらの内容を知る過程の中で，学生間でどのようなディスカッションがあったのか，どのような相互作用があったのかについて報告しました．

各グループのファシリテーターからも講評を頂き，参加した学生にとっては，今後援助者になるにあたって大切にすべき理念や学習課題が得られたと思います．また，本学のＩＰ演習のプログラムとしても，さらに重視すべき点や修正すべき課題を認識でき，非常に有意義な報告会となりました．

ＩＰ演習報告会　ー各グループ報告概要ー

チーム１

Ａさんの援助目標を「安心できる在宅生活の支援」「Ａさんらしい生き生きとした暮らしの支援」とし，生き生きとした在宅生活を送るためにどうしたらよいかを検討した．Ａさんからニーズを引き出す工夫や近隣住民とのかかわり，地域の協力や精神的サポートについても計画を検討してＩＰＷを体感した様子を発表した．

施設ファシリテーターからは，学生達だけで援助計画を考えたことを評価，学生チームの様子が時間を追うごとに変化していく様子に驚きながら，「地域という言葉が出てきた時には感動した」とお話いただいた．

会場から「自分はチームに貢献できたか」という質問に対しては，Ａさんについてそれぞれの視点で考えたことを，貢献できたと感じている様子がうかがえた．

チーム２

障害（身体，発達）をもつＣ君が，地域で生活をするための援助目標を「地域の保育園への就園」とし，経済的，医療的課題を念頭におきながら，環境整備や制度の利用，またどうしたらＣ君が保育園での集団生活，社会生活が送れるかを考えた援助計画を発表した．

Ｃ君支援のＩＰＷの体感から，医療，保健，福祉の多くの専門職連携が必要となると同時に，各部門のアプローチが重複し，はっきりとした役割分担をすることは難しいという気づきがあった．

ファシリテーターからは，「母親との短いインタビューでどんな情報が収集できるか心配したが，学生はスタッフからもいろいろ話を聞いて援助計画を作成し，人と人との繋がりの中で，１人の人を支援していく現場を体感できたのではないか」とお話いただいた．

チーム５

胸腰椎圧迫骨折により入院中のＢさんの援助目標を「自宅で生活できる」とし，援助計画の方針を「身体面・精神面を考慮しつつ本人，家族の意向を最大限に取り入れる」とした．「退院のための援助」と「退院後を視野に入れた援助」に分けて課題をあげ，その経緯，専門職介入の具体策，地域の支援等に関するエコマップを示した．

ＩＰＷとは専門性を活かしながら1人の援助をする運命共同体であり，そのためには，職種の理解を深め，信頼できる関係，専門性の確立が必要であるとした．

目標設定の仕方について質問があり，最初に本人の意向を中心にしたゴールを考え，その後専門職の目標を設定し，最終的に共通目標を考えたことを述べた．

ファシリテーターからは「理想と現実のギャップに悩みながら学生達自身で乗り越えていく様子をみて，介入を待つことの大事さを職場にも活かしたい」と話された．

チーム３

認知症があって施設に入所，「家に帰りたい」というＥさんに対し，自分達には何ができるか，Ｅさんの秘めている可能性を引き出せる取り組みについてを検討し，援助計画のテーマを「あと一歩では！？」とした．声かけの工夫，居場所・存在意義，専門性と連携を活かしての情報収集と共有の具体策について報告した．

チーム形成の過程で，最初は自分のことを素直に話せなかったり，自己表現が出来なかったり，専門にこだわりそうになったが，利用者あっての自分達だと気づき，Ｅさんにあわせた考え方にとチーム内が変化したことが発表された．

また，専門性を認め合いながら利用者の可能性を引き出す大切さを感じたことが発表された．

施設ファシリテーターから「連携は現場の課題であり，このチームも限られた時間の中で色々な検討がされ，学生には成果があったのではないか」とお話いただいた．

チーム４

頸髄損傷受傷で入院中のＤさんの退院に向けた援助目標を「本人，家族が自宅で安心して，その人らしく生活することができる」とし，援助計画は「排尿障害」「介護負担」「退院後の生活設計」「ＡＤＬの維持向上」についてチームの方針と具体策，アプローチを誰が行うかについて検討した内容を報告した．

なぜ連携が必要なのかということについて，多くの課題をもつ患者に対し，１つの専門職だけでは限界があり解決につながらないこと，また価値観や方法に偏りが出ることも多職種で関わることにより包括的に患者をとらえ，解決策を見出すことができると発表した．施設ファシリテーターから，「短期間に莫大な情報をよくまとめて日に日に成長し，チームの他の専門を理解していなかったことや専門職として自分に何ができるかという気づきがあり，お互いを理解しあう大切さ，保健・福祉等制度の限界などにもよく気づいていた」と話された．

新カリキュラムの「連携と統合科目群」はじまる

2006 年度から埼玉県立大学は保健医療福祉学部に健康開発学科を加え，定員も大幅に増え，新しいカリキュラムによる教育がスタートしました．この新しいカリキュラムでは，各学科の専門科目や教養科目群・共通専門基礎科目群と並んで「連携と統合科目群」も発展しており，この集大成として 2009 年度に「ＩＰ演習」が開講されます．

この連携と統合科目群の中で今年 1 年生に開講した「ヒューマンケア論」「フィールド体験学習」の様子をご紹介します．

【ヒューマンケア論】

ヒューマンケア論は，1 年生前期に開講される科目で，何らかの支援を必要とする人々が，その問題を主体的に解決してより良く生きることを目指してもらうための，保健・医療・福祉の共通の援助の理念と方法について考える科目です．病気，障害，老い，死などをテーマに，様々なゲストスピーカの話を交えて，学生が主体的にこれらの課題を考える力を養うことをねらいとしています．

認知症の家族の介護経験や本人の気持ちについて講義する高畑富美子氏

最終講義では，後期初めに行う「フィールド体験学習」で各実習先に赴く学科混合の学生グループで，全体を通した振り返りのディスカッションが行われました．

【フィールド体験学習】

フィールド体験学習は，後期の授業が始まる直前に行われる 4 日間の体験学習プログラムで，学科混合のグループを編成し，今年度は約 80 の施設にご協力を頂いて実施しました．

学生はこの体験学習において，自己と人との関わり方を客観視する姿勢，グループメンバーと協力し合う姿勢，援助を必要とする人々やそれを支える援助者の役割に関心を向ける姿勢，多様な人間観・価値観を理解しようとする姿勢を養うことが期待されています．4 日間の体験学習の翌週には振り返り学習会を実施．グループで発表準備を行い，午後からは５つの会場に分かれて報告会が行われました．

学生たちは初めての「現場」で感じ，考えた率直な気持ちを表現できたとともに，質疑応答の中から今後の学習課題についても感じ取ったことでしょう．

学生とともに創造する学び･･･学生教育参画会議を結成

新しいカリキュラムにおける連携と統合科目群は，学生とも協働して教育プログラムを創造しようとしています．これは，援助活動においても患者・利用者の意向が尊重されるのと同様，教育プログラムに対する学生の評価や要望をできるだけ取り入れることによって，学生の主体的な学びを育み，質の高い教育内容の発展を目指すものです．

この一環として，「連携と統合科目群学生教育参画会議」が組織化されました．新カリキュラム1年生の各学科から合計13人の学生が選ばれ，連携と統合科目群に対する評価はもちろん，学内外の様々な教育活動への参加が期待されます．

今年度の学生メンバーは，次の方々です．この学生教育参画会議の今後の活動に，ご期待ください．

<学生教育参画会議学生メンバー>
富岡慎也(実行委員長・理学療法学科)，松村亜希子(看護学科・副委員長)，上田さより(作業療法学科・副委員長)，強矢晴香(作業療法学科・広報)，坂場愛(社会福祉学科・書記)，八ツ井綾華(看護学科)，江頭卓(理学療法学科)，伊藤奈津子(作業療法学科)，渋谷直美(社会福祉学科)，染谷かおり，菊池彩，安藤志津子，杉原彩(以上健康開発学科)

本学，埼玉，日本，世界のIPEの発展のために･･･

【学内教職員研修会】

第1回「IP演習の具体化に向けて」（5月29日実施）

○講師：ｴﾘｻﾞﾍﾞｽ･ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ氏，ｱﾝｼﾞｪﾗ･ﾚﾉｯｸｽ氏(英国ﾚｽﾀｰ大学)
○参加者：98名の教員と学生
○概要：最初にアンダーソン先生が，レスターの英国内の位置や地域性を紹介した上で，　レスター大学が地域の福祉医療機関や地域住民組織とともに取り組んでいるIPEの歴史と概要を説明されました．お話によれば，英国内では1980年代から様々な医療現場の事故が分析され，それを受けて1990年代初めより保健医療福祉の専門職連携に関する卒前教育の重要性が強く認識されたといいます．その後各大学で取り組みが始まり，レスター地域においても家庭医であるレノックス先生らの協力を得て，1990年代後半に地域での専門職連携教育が開始されました．レスター地域の専門職連携教育は，3つの大学の学部長と地域の保健行政責任者によって実施の意思決定が行われた後，組織的に実践されています．

看護，医学，ﾘﾊﾋﾞﾘ，社会福祉，薬学などの領域の，一部は修士課程の学生も含む3,500名の学生が，「レスター・モデル」と呼ばれる専門職連携教育プログラムを展開しています．教育課程は3つに分けられ，比較的一般的で分かりやすい事例から，次第に複雑な事例が段階を追って提示されます．実習は地域の患者やその主治医などが参加するなど，きわめて実践的な内容です．このプログラムの成否に関わるため，実習地や協力者の選択や養成にはかなり力を入れているようです．

第2回「IP演習試行事業報告会」（11月9日実施）

○講師：坂田悍教，大塚眞理子，新村洋未（以上看護学科），新井利民（社会福祉学科）
○参加者：約25名の教員
○概要：　9月に実施したIP演習試行事業の詳細について報告するとともに，平成21年度の正式実施に向けての課題について討議しました．この教員向け研修会は今後も継続的に実施する予定です．

【他大学のFD】

神奈川県立保健福祉大学FDへの講師派遣（8月2日）

●報告者：渡部尚子（副学長），原和彦（理学療法学科），大塚眞理子（看護学科），新井利民（社会福祉学科）

【学会等における報告】

第6回アジア太平洋PBLｶﾝﾌｧﾚﾝｽ（東京女子医科大学）

本学と東京慈恵会医科大学の共催によるシンポジウム
：“PBL in Interprofessional education”（5月26日開催）
○報告者：福島統氏（東京慈恵会医科大学），朝日雅也（社会福祉学科），大塚眞理子（看護学科），ｴﾘｻﾞﾍﾞｽ･ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ氏（英国ﾚｽﾀｰ大学）
○概要：内外の様々な教育関係者と，IPEやPBLについて意見交換が行われました．

くにびきGP交流フォーラム（島根女子短期大学）

パネルディスカッション：大学改革と特色GP・現代GP(5月31日開催)
○報告者：渡部尚子（副学長）
○概要：他に福山市立女子短大，愛知県立大学等が報告しました．

PIPE（Promoting Interprofessional Education）International Conference（オックスフォード）

ポスター発表：Curriculum development of interprofessional Education at Saitama Prefectural University, Japan（7月2日）
○報告者：大塚眞理子（看護学科），新井利民（社会福祉学科）

第16回日本看護学教育学会（名古屋国際会議場）

本学主催交流セッション：インタープロフェッショナル教育を看護教育に取り入れるための課題（8月5日開催）
○報告者：長谷川真美，横山恵子，兼宗美幸，新村洋未，丸山優，大塚眞理子（以上看護学科），國澤尚子（健康開発学科），西原賢（理学療法学科）
○指定発言者：服部満生子氏（茨城県立医療大学），田村由美氏（神戸大学）
○概要：約80名の参加があり，本学のIPEに関する報告の後に，今後の課題に関する議論を通じて多くの方々と交流しました．

第16回全国産業教育フェスタ埼玉大会（さいたまスーパーアリーナ）

特色GP・現代GPのポスター展示（11月10日～12日開催）

ウェブサイトsaipeにもご注目ください
http://www.spu.ac.jp/saipe/

【編集後記】　IP演習報告会の最後のまとめとして，比企管内専門職連携推進会議の会長である曽根直樹氏が，こんなコメントを残してくれました．「発表を聞いて学生が現場の矛盾に突き当たっている姿を感じたが，そこにこそ，連携不足の課題，本人のニーズを阻害しているもの，現実の社会の抑圧などが隠されているのだろう．そこから目をそらすと，多職種が連携する推進力にはならない．目をそらさず，しっかりと見て，私たちに課題を突きつけるような発表をしてもらいたい．もちろん自分たちもそれに挑戦したい･･･」．厳しくもあたたかなこのコメントに，本学のＩＰＥの使命を見たような気がしました．（と）

埼玉県立大学ＧＰ実施部会

部会長　坂田悍教　（教育研修センター所長）
広報担当 朝日雅也，新井利民（社会福祉学科）
事務局スタッフ　野島，眞田，近藤

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしています．
〒343-8540　埼玉県越谷市三野宮８２０番地
電話/Fax　０４８（９７３）４１９９
E-mail: saitama-gp@spu.ac.jp